

# 2021年12月期 第2四半期 決算説明

サイオス株式会社  
(東証二部：3744)  
2021年7月29日

# 2021年12月期 第2四半期 業績の概要

# 2021年12月期 第2四半期 業績 (連結)



(単位：百万円)

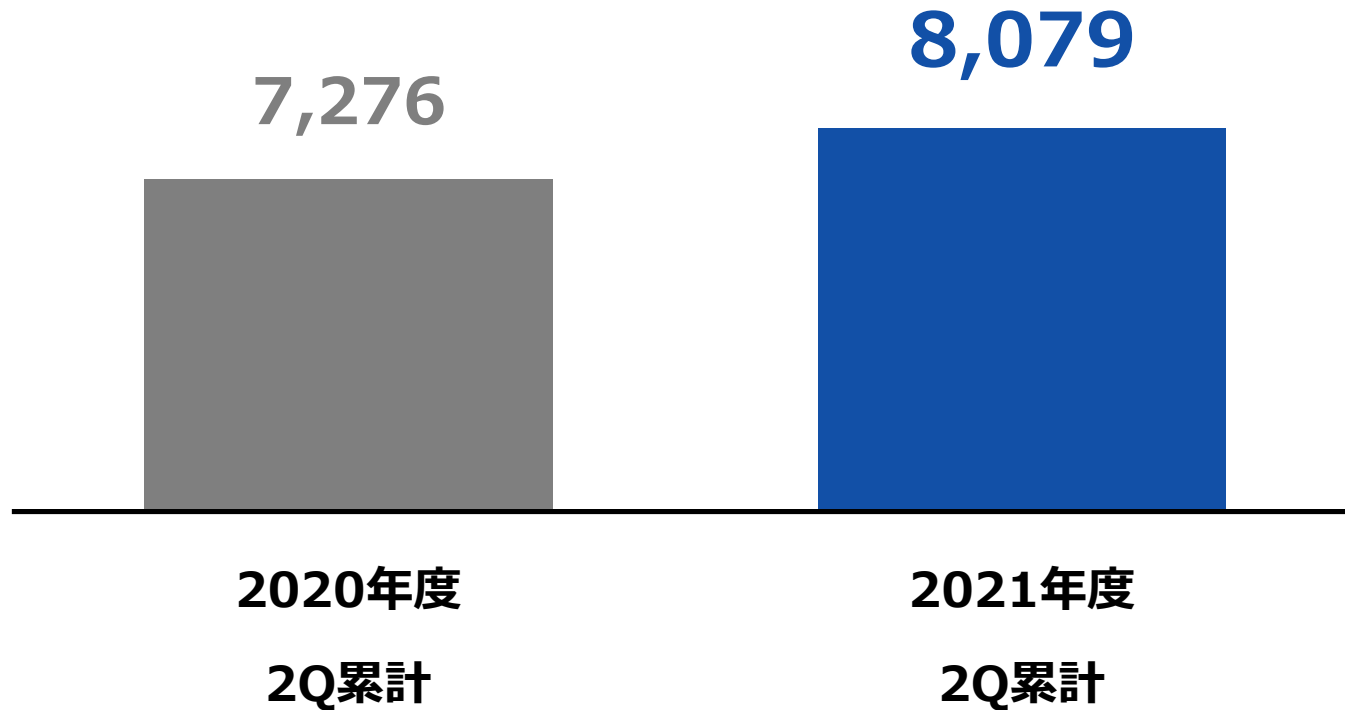
	2020年12月期 1-2Q実績	2021年12月期 1-2Q実績	差額	前年同期比
売上高	7,276	<b>8,079</b>	+ 802	+ 11.0%
売上総利益	2,178	<b>2,486</b>	+ 307	+ 14.1%
営業利益	54	<b>295</b>	+ 241	+ 443.2%
経常利益	57	<b>316</b>	+ 258	+ 446.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	19	<b>234</b>	+ 214	—
EBITDA	101	<b>334</b>	+ 233	+ 231.6%
ROIC(年率換算)	3.5%	<b>16.9%</b>	—	—

※EBITDA・・・営業利益+減価償却費+のれん償却額

※ROIC・・・税引後営業利益÷(株主資本+有利子負債)

# 連結売上高

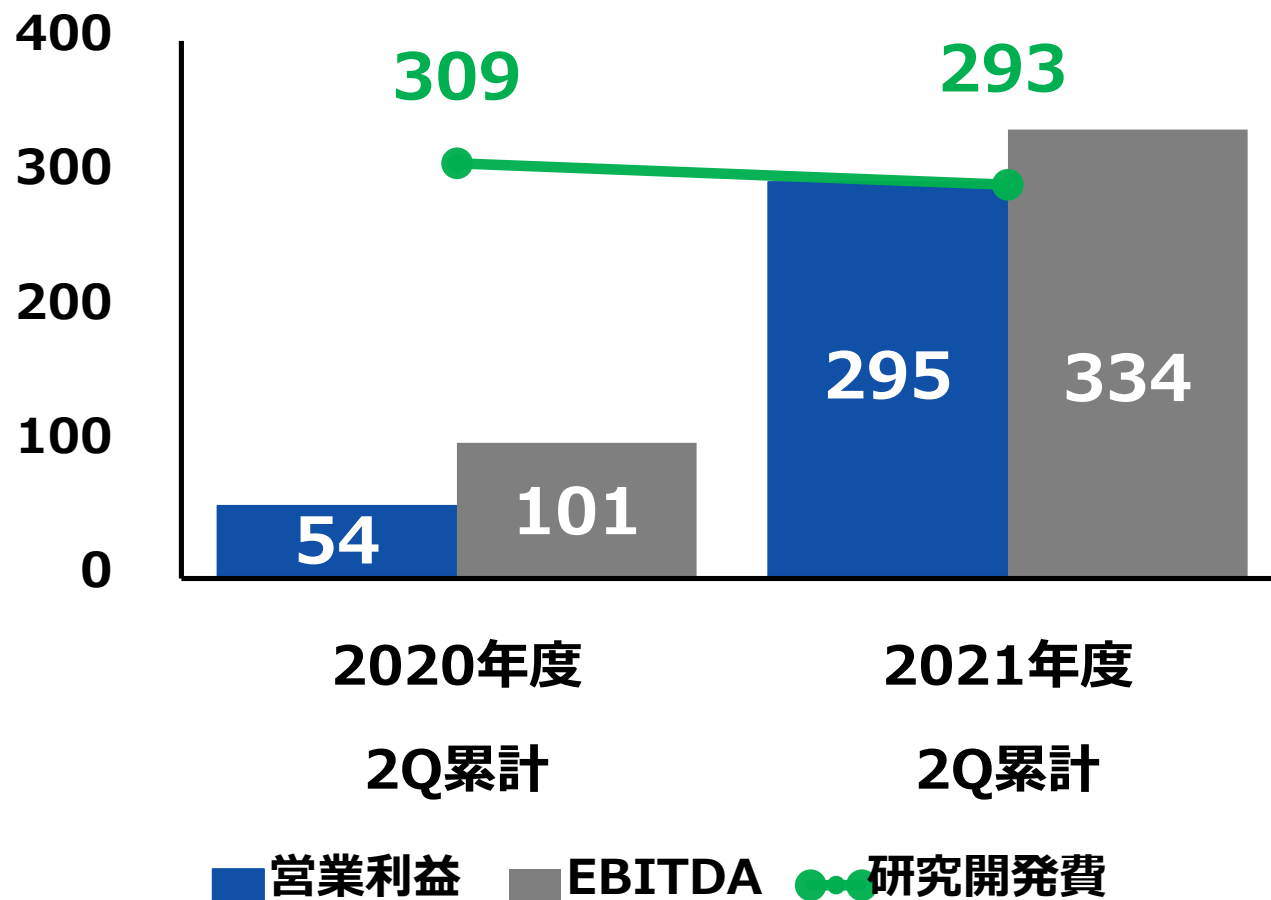
(単位：百万円)



過去最高  
を更新  
(11.0%増)

# 連結営業利益・EBITDA及び研究開発費

(単位：百万円)



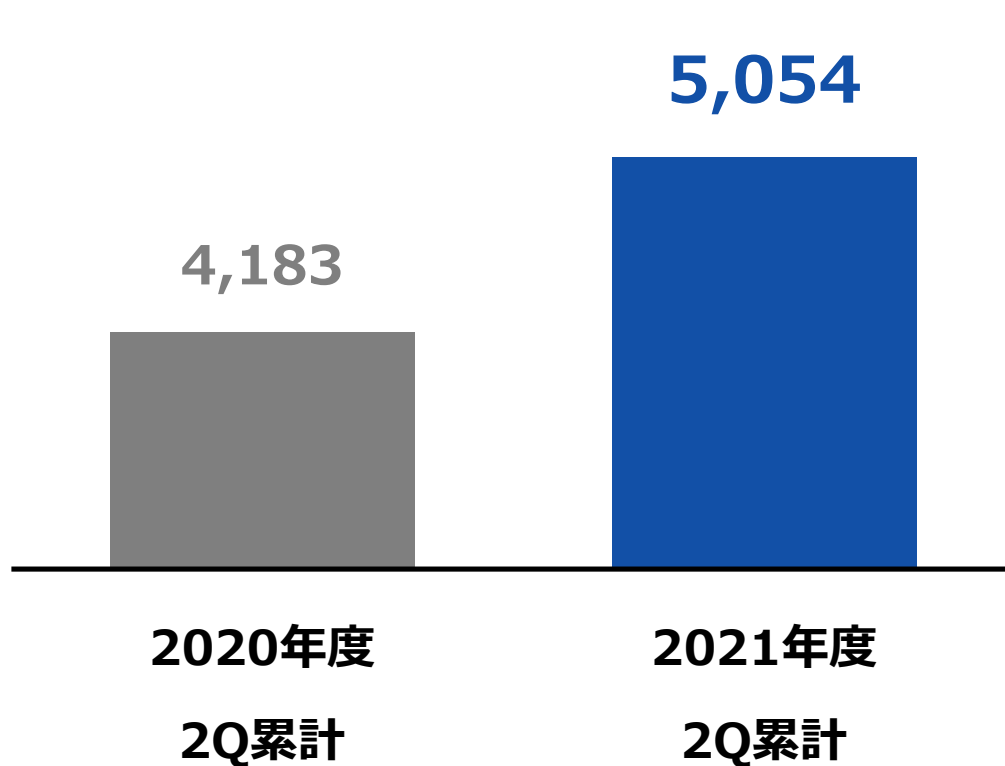
- 営業利益は前年同期比  
241百万円**増加**
- EBITDAは前年同期比  
233百万円**増加**
- 研究開発への**継続的投資**

# オープンシステム基盤事業

売上高

5,054百万円（前年同期比 20.8%増）

（単位：百万円）



COVID-19拡大を背景として、顧客におけるDX\*への積極的な投資が継続していることから、

- Red Hat, Inc.関連商品\*は**好調な増収**
- 主力自社製品の「LifeKeeper\*」は**順調な増収**

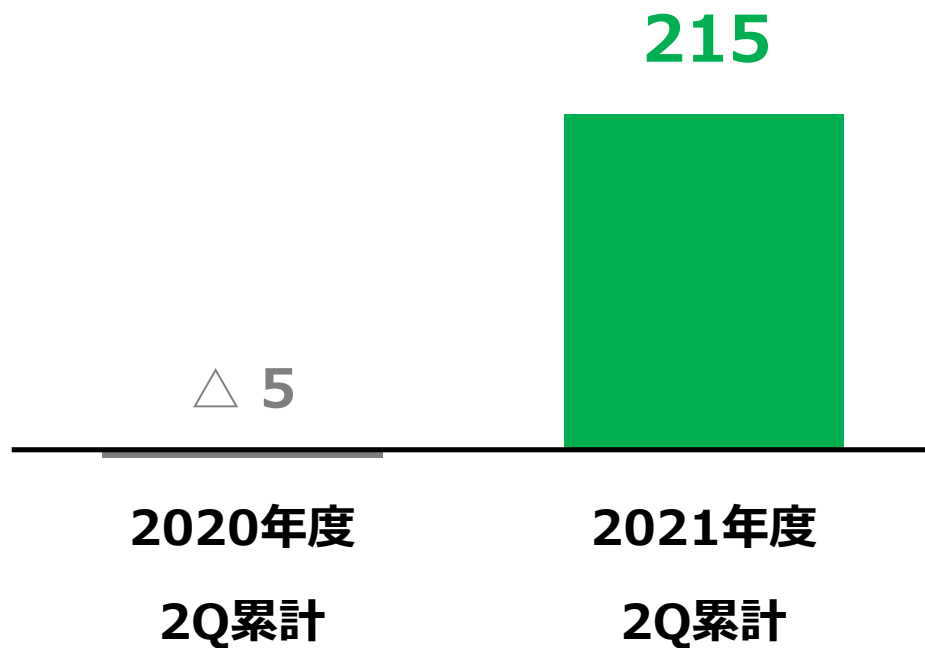
※「\*」を付した用語については28頁に注釈を記載

# オープンシステム基盤事業

## セグメント利益

215百万円（前年同期は5百万円の損失）

（単位：百万円）



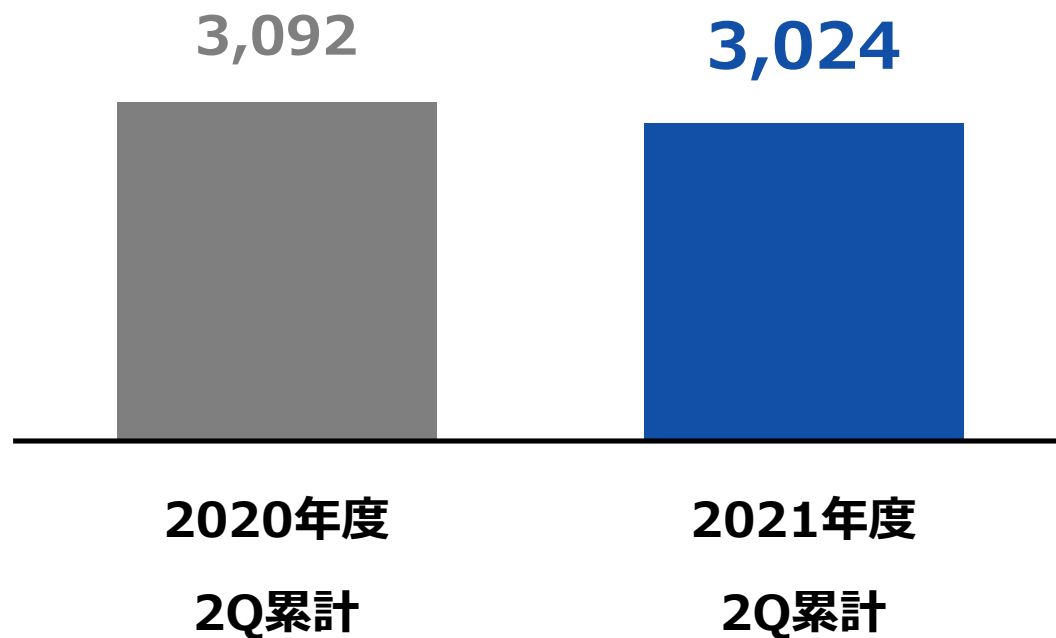
- オープンシステム基盤事業の売上高が好調な増収となったことにより**増益**

# アプリケーション事業

売上高

3,024百万円（前年同期比 2.2%減）

（単位：百万円）



- 主力自社製品のMFP向けソフトウェア\*製品および「Gluegentシリーズ\*」は**好調な増収**
- 金融機関向けシステム開発・構築支援は**減収**

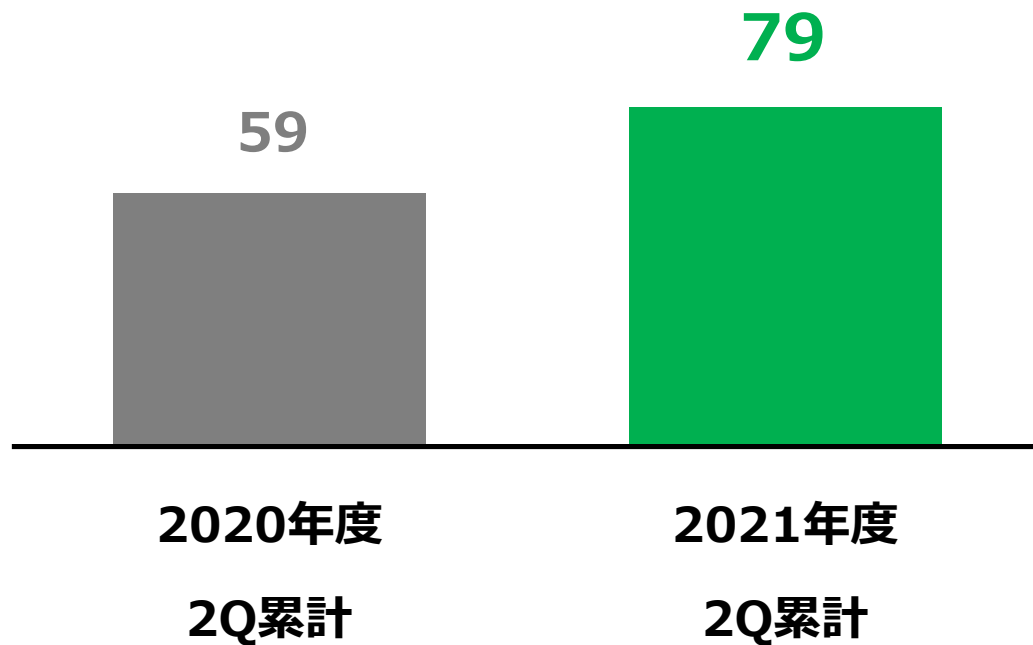


# アプリケーション事業

セグメント利益

79百万円（前年同期比 32.7%増）

（単位：百万円）



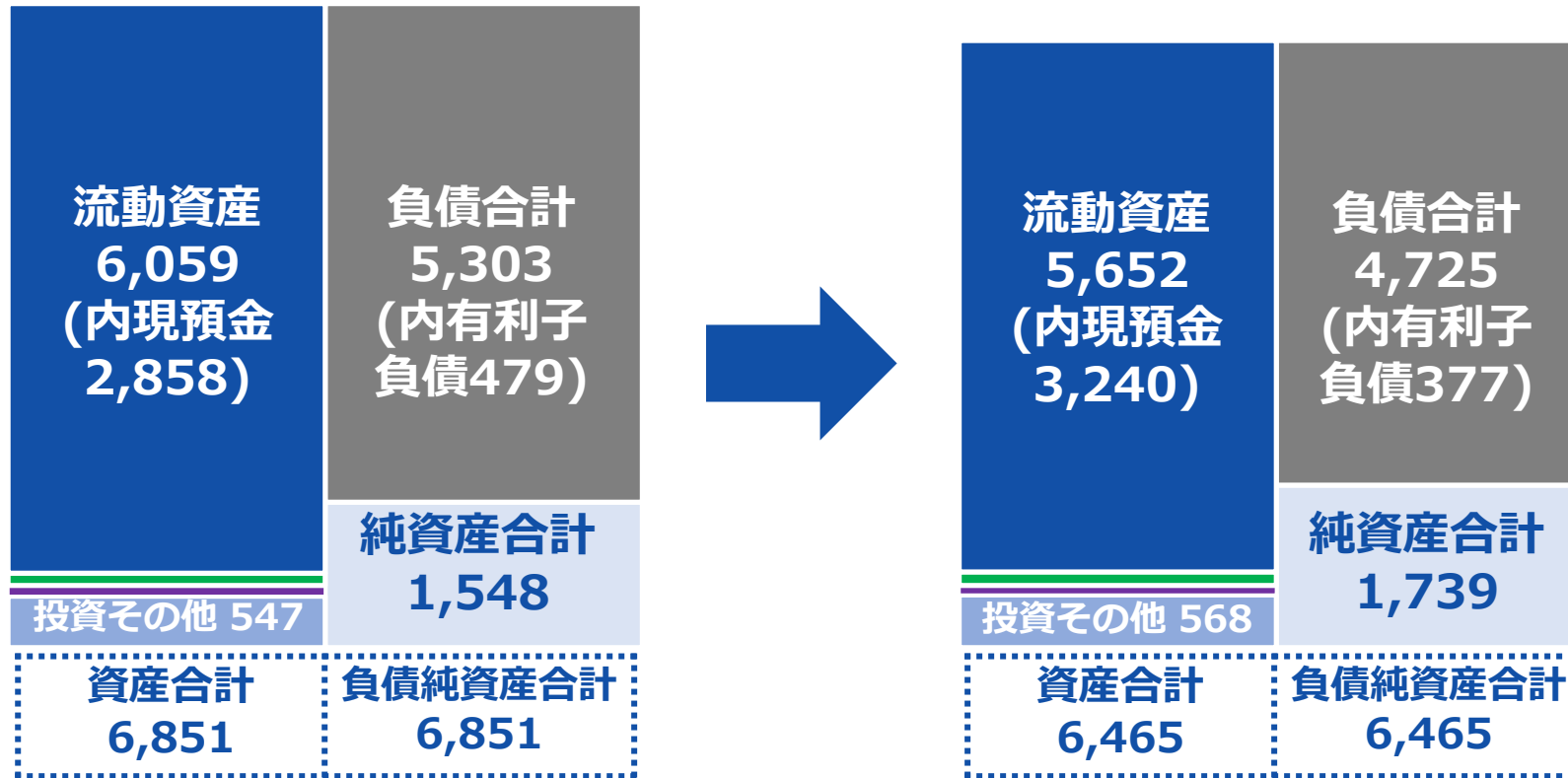
- 自社製品の販売が好調に推移したことにより**増益**

# 貸借対照表 (連結)

2020年12月31日

2021年6月30日

(単位：百万円)

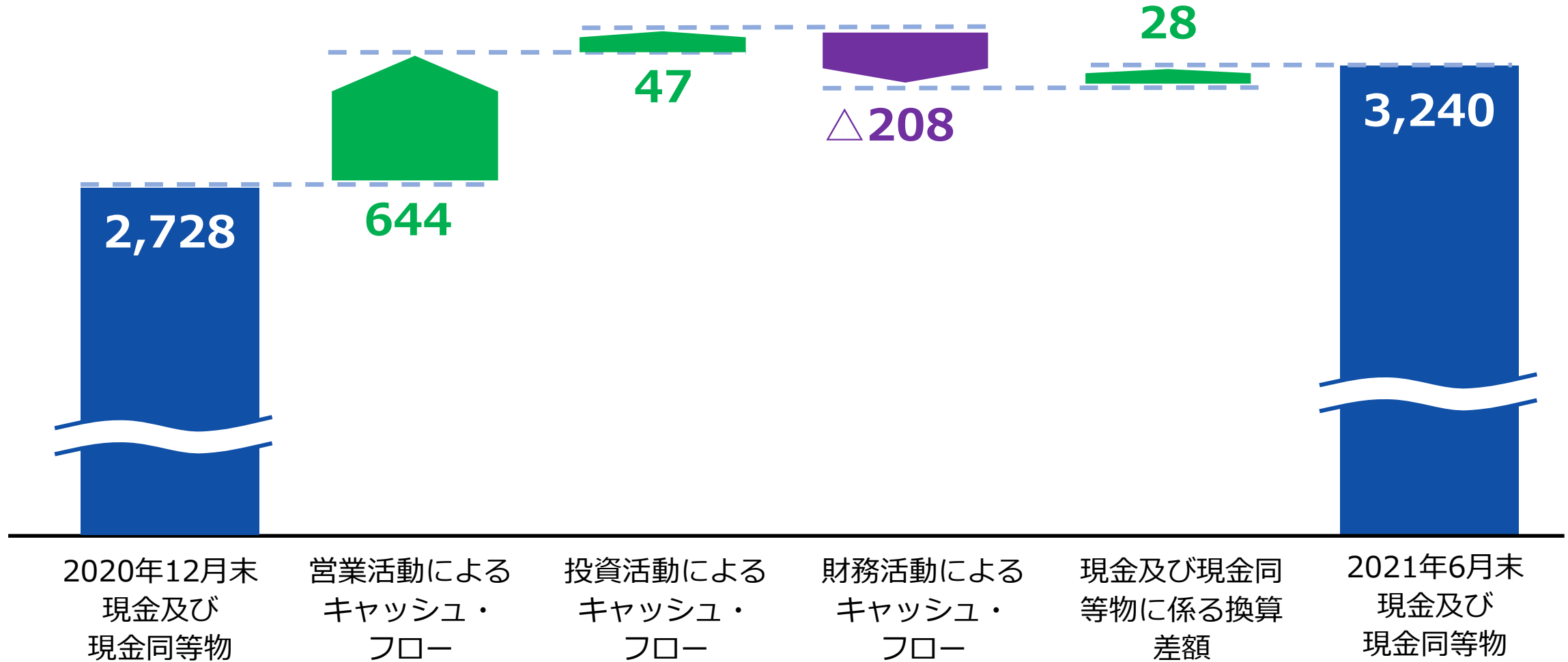


■ 有形固定資産 131 ■ 無形固定資産 112 ■ 有形固定資産 143 ■ 無形固定資産 100

- 流動資産：棚卸資産481百万円減少
- 流動負債：買掛金865百万円減少、前受金502百万円増加

# キャッシュ・フロー（連結）

(単位：百万円)



# キャッシュ・フロー変動要因

	営業キャッシュフロー	投資キャッシュフロー	財務キャッシュフロー
金額	+644百万円	47百万円	△208百万円
主な項目	(+)税金等調整前四半期利益 313百万円 (+)売上債権 420百万円減少 (+)棚卸資産 481百万円減少 (△)仕入債務 865百万円減少 (+)前受金 467百万円増加	(+)定期預金の払戻 130百万円 (△)資産除去債務の履行 30百万円 (△)投資有価証券の取得 25百万円	(△)長期借入金返済 61百万円 (△)短期借入金純増減 50百万円 (△)配当金の支払 86百万円

# 2021年12月期 第2四半期の取り組み

# 基本方針と経営指標

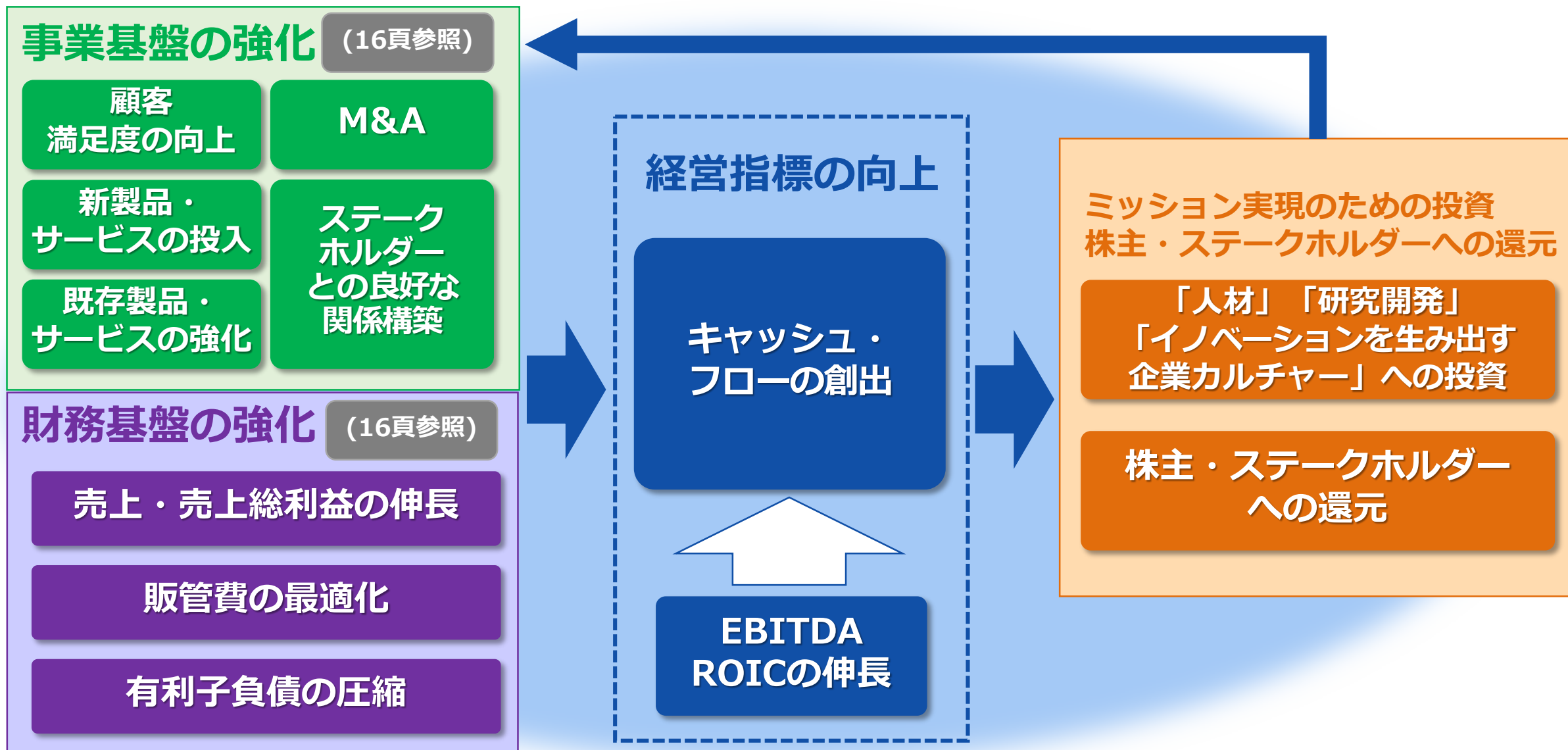
## 会社経営の基本方針

当社グループは、「**世界中の人々のために、不可能を可能に。**」をミッションと定め、イノベーションによって人々の課題を解決し、より良い社会の実現に貢献することを経営の基本方針としています。

## 目標とする経営指標

当社グループは、継続的なキャッシュ・フローの創出のため、**EBITDA**及び**ROIC**を経営指標としています。キャッシュ・フローは、当社グループ成長のための源泉（Driving Force）である「人材」「研究開発」「イノベーションを生み出す企業カルチャー」への投資、及び株主・ステークホルダーへの還元の出発点とし、これらの活動を通じて経営の基本方針の実現を目指します。

# 当社のミッションの実現のために



# 2021年12月期 第2四半期の取り組み

## 既存製品・ サービスの強化

- 「Gluegentシリーズ」を含むSaaS\*事業の強化 (17~21頁参照)
- 「LifeKeeper」のクラウド対応強化
- 大学など学校法人へのクラウド導入支援強化

## 販管費の最適化

### 連結子会社間の合併

(2021/4/1、サイオステクノロジーにProfit Cubeを合併)

## 有利子負債 の圧縮

### 借入金の返済111百万円



# 今後の事業戦略～SaaS事業の強化～

# 今後の事業戦略～SaaS事業の強化～

## 顧客満足度の向上と当社グループの成長のため SaaS事業への投資を強化

【当社のビジネス領域（BtoB）】



- 2021年度（予測）のSaaS市場の規模は約1.2兆円  
（出典：富士キメラ総研  
「2021 クラウドコンピューティングの現状と将来展望 市場編」より引用）
- 企業のリモートワーク移行・DX化を背景とし、さらなる市場規模の拡大を想定

**BtoB向け既存製品・サービス  
（SI、ソフトウェア等）を基盤とし  
SaaSに投資を強化する**

# SaaS投資強化第1弾：「Gluegentシリーズ」



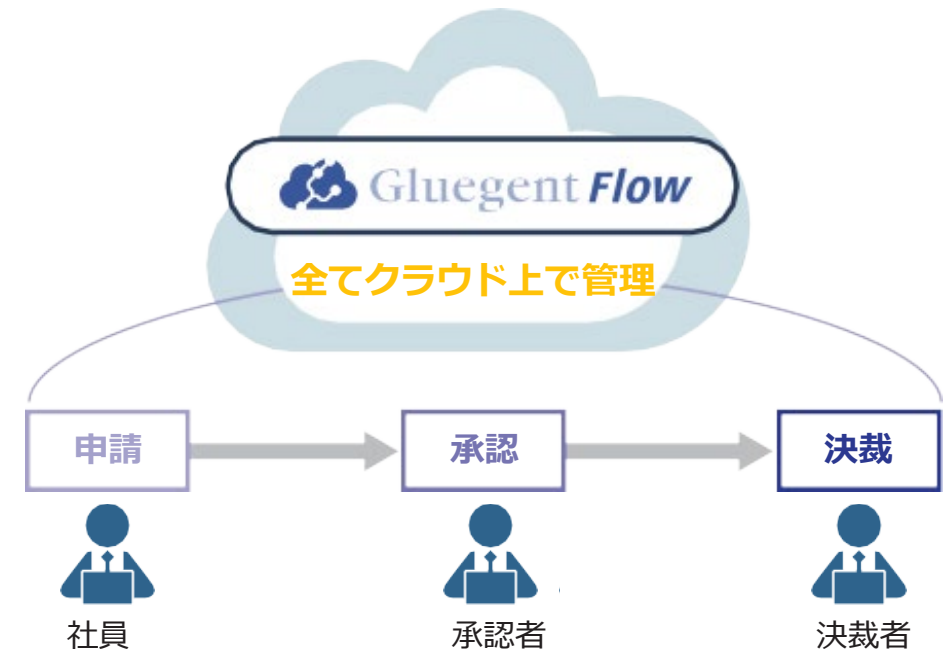
「Gluegentシリーズ」は“つながるクラウド”をキーワードとした「クラウド型ワークフローシステム (Gluegent Flow)」 「SaaS認証基盤製品 (Gluegent Gate)」等

## 企業のリモートワーク移行・DX化を推進する製品群

### 【クラウド型ワークフローシステム】



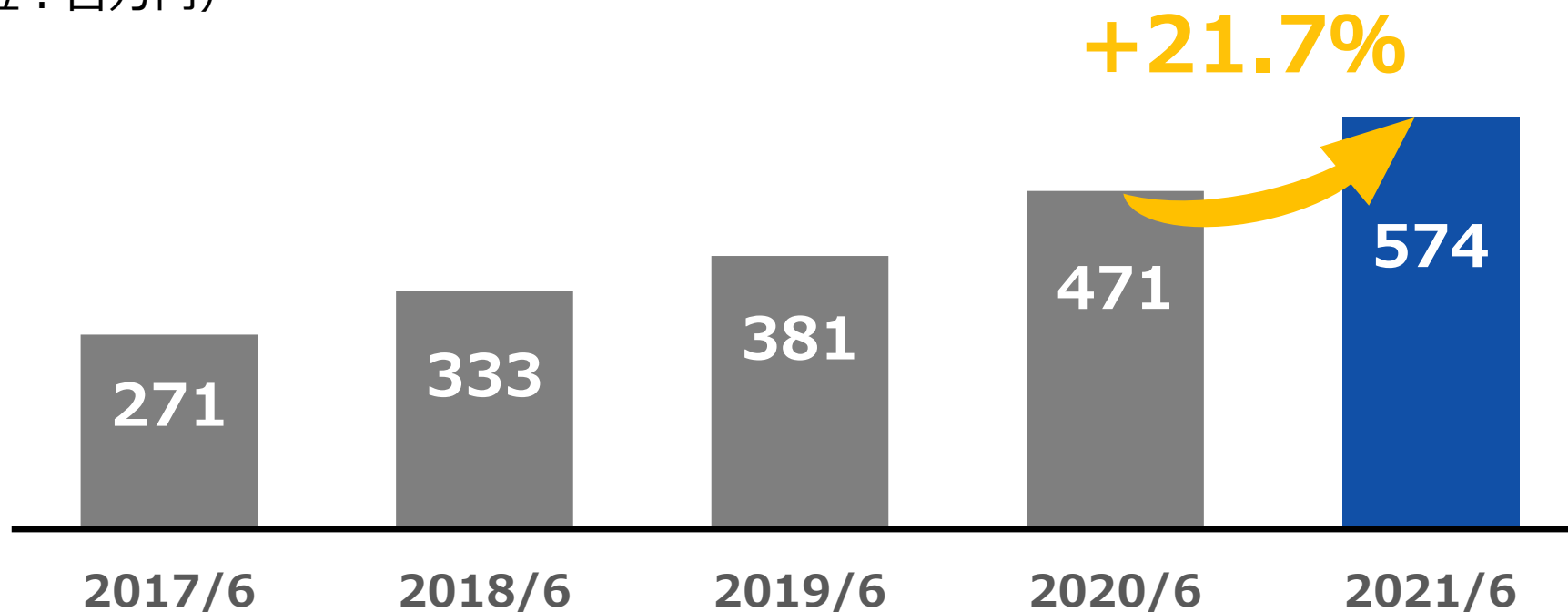
### 【SaaS認証基盤製品】



# GluegentシリーズのARR (注1) 推移

## SaaS市場の成長率 (注2) を上回るスピードで伸長

(単位：百万円)

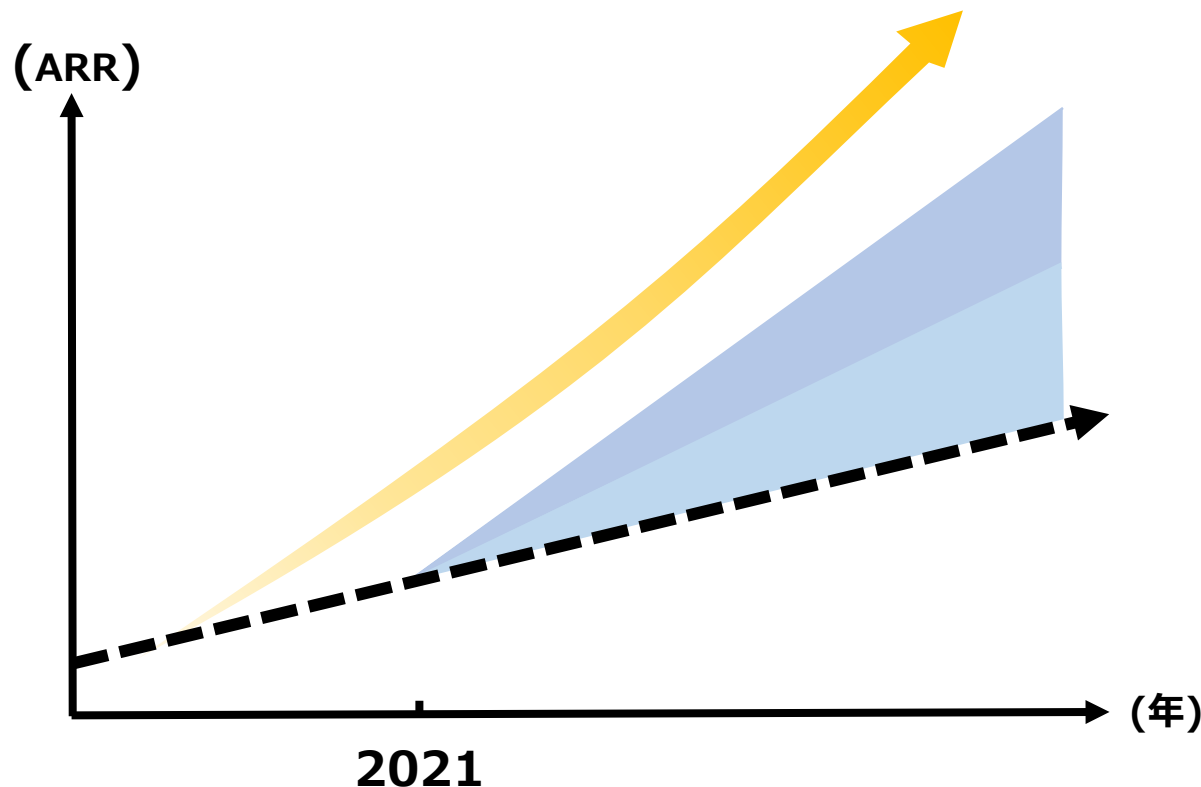


(注1) ARR (Annual Recurring Revenue) = 月末におけるMRR (サブスクリプション契約等に基づき毎月繰り返し得られる収益の月間合計) × 12ヶ月

(注2) 富士キメラ総研の「2021 クラウドコンピューティングの現状と将来展望 市場編」によると、2021年度 (予測) のSaaS市場は約1.2兆円 (前年比+15.6%) となる見込み。

# GluegentシリーズのARR成長戦略

## 2021年を転換点として飛躍的な成長を実現する



### マーケティング強化

- ・マーケティング人材の採用強化
- ・デジタルマーケティングへの投資

⇒市場認知度の向上、受注案件の増加

### 開発強化

- ・エンジニアの拡充による開発体制の強化
- ・ユーザーのニーズに適う製品の開発

⇒ユーザーの期待に応える製品の適時提供

# 通期業績予想

# 通期業績予想の修正

上期業績が当初想定を超えて推移しているため上方修正

(単位：百万円)

	当初予想 (2021年1月公表)	今回発表予想	増減率
売上高	15,500	<b>15,700</b>	+1.3%
営業利益	320	<b>480</b>	+50.0%
EBITDA	410	<b>560</b>	+36.6%
ROIC	9.2%	<b>13.2%</b>	—

# 通期業績予想と進捗

## 11期連続の増収となる売上高157億円を計画

(単位：百万円)

	2021年12月期 1-2Q実績	2021年12月期 業績予想	進捗率
売上高	8,079	<b>15,700</b>	51.5%
営業利益	295	<b>480</b>	61.6%
経常利益	316	<b>510</b>	62.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	234	<b>390</b>	60.1%
EBITDA	334	<b>560</b>	59.8%
ROIC(年率換算)	16.9%	<b>13.2%</b>	—



# 当期の配当予想

	第24期 2020年12月期 (前期実績)	第25期 2021年12月期 (当期末)
年間配当	10円	10円

配当予想  
(2021年12月期)

1株当たり10円の配当を予定

# Appendix

# サイオス株式会社について



## SIOS is Innovative Open Solutions

本社	東京都港区南麻布2-12-3 サイオスビル
資本金	1,481百万円
設立	1997年5月23日
社員数	連結454名（2020年12月31日現在）
主な 連結 子会社	サイオステクノロジー（株） SIOS Technology Corp. <米国>

当社は、Linuxに代表されるオープンソースソフトウェア、AI、クラウド、フィンテック等に卓越した強みを有するテクノロジー企業群を子会社に持つ東証二部上場の持株会社です。

「世界中の人々のために、不可能を可能に。」  
をグループミッションに、  
イノベーションによって  
人々の課題を解決し、  
より良い社会の実現に  
貢献してまいります。



# 用語集

頁	用語	説明
6	<b>DX</b> (デジタルトランスフォーメーション)	企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。
6	<b>Red Hat, Inc.関連商品</b>	オープンソースソフトウェア&サービス・プロバイダーRed Hat, Inc.が開発するオープンソースの製品。
6	<b>LifeKeeper</b>	本番稼働のサーバーとは別に同じ環境の予備サーバーを待機させ、万が一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担うソフトウェア。
8	<b>MFP向けソフトウェア</b>	プリンタ、スキャナー、コピー、FAX等複数の機能を搭載した機器をMFP(Multifunction Peripheralの略)という。MFP上で利用できる文書管理ソフトウェア「Quickスキャン」「Speedoc」等。
8	<b>Gluegentシリーズ</b>	IDの管理をクラウドで行うサービス「Gluegent Gate」をはじめ、クラウド型ワークフローの「Gluegent Flow」、Google Calendarにチームメンバーの予定管理機能等を付加した「Gluegent Appsグループスケジューラ」等、企業におけるクラウドを利用した業務効率化等を支援するサービス。
16	<b>SaaS</b>	Software as a Serviceの略。ソフトウェアをクラウドサービスとして提供すること。
18	<b>サブスク (サブスクリプション)</b>	ソフトウェア等の製品・サービスの提供に対して、定期的に定額課金または従量課金するモデル。

# ご留意事項

業績予想につきましては、現在入手している情報に基づいた当社の判断であり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要素により業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向などが含まれております。但し、業績に影響を与え得る要素は、これらに限定されるものではありません。

## 本件に関するお問い合わせ

サイオス株式会社 IR担当

Tel : 03-6401-5125 (直通)

Webによる場合はこちらからお問い合わせください

[https://mk.sios.com/SIOS\\_Inquiry.html](https://mk.sios.com/SIOS_Inquiry.html)



SIOS